

平成28年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ドキドキ ハロウィン
事業主体 (連絡先)	中野市商店会連合会 中野市中央1-7-2 信州中野商工会議所内
事業区分	⑥産業振興、雇用拡大に関する事業 エ 商業の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,058,640円 (うち支援金: 793,000円)

事業内容

今回で3回目となる「ドキドキハロウィン」を10月15日(土)元気づくり支援金を受けて開催。今年の仮装した参加者は540人で好天に恵まれ約1000人の人出となった。ファッションショーでは仮装をした42組がポーズを決め、ランウェイを歩きながら個性的な姿を披露し、パレードはリムジンと鼓笛隊に先導されて中町通りを行進した。トリックオアトリートは商店街の32店舗にお菓子をもらいに回った。初めて商店街のお店に入ったという参加者も多く、子供たちやその親に商店街のお店を知ってもらおうきっかけとなった。

参加者からは「楽しかった。来年もまた参加したい」、お店の方は「普段と違う世代との交流ができて良かった」などの声を頂き、両者にとって楽しくメリットのあるイベントになった。ハロウィンは企画段階から高校生や市民ボランティアが参画し作り上げたイベントで、当日は約50名のボランティアが協力して運営した。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①普段商店街を利用しない若い年齢層が、ハロウィンに参加したことで街の商店街及びお店に親しみを持つことができた。
- ②参加者は入店した事のない店に入ること、その店の存在を知ることができ、次回の来店のきっかけを作ることができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

市民が企画に参加してもらい参加者も商店街のお店も楽しめる企画にしたい。当連合会が実施するイベントに個店が参加協力するというのではなく、個店がハロウィンイベントを上手に利用して次回の来店につながられるような宣伝や工夫等の客作りにつながられるイベントに発展させたい。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【仮装した子供たち】

【目標・ねらい】

- ①来街の促進
- ②来店の促進

※自己評価 【B】

【理由】

参加者が目標の2/3程度だった。